

## LAN アクキュライザーの活用(5) ーアナログと配信音源再生(5)ー

### 1. 始めに

前報(4)に引き続き、LAN アクキュライザーの導入により配信音源のレベルが上がってきたことで、アナログと配信音源再生の直接比較を実施していきます。

### 2. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴計画

今回試聴するのは、リヒター指揮ミュンヘンバツハ管弦楽団によるバツハの管弦楽組曲です。

アナログ盤

ARCHIV SAPM 198-172-173 (日本グラモフォン)

J.S.バツハ 管弦楽組曲第1番・第2番・第3番・第4番 BWV1066-1069

カール・リヒター指揮ミュンヘンバツハ管弦楽団

オーレル・ニコレ (フルート)

STAGE+

J.S.バツハ：管弦楽組曲

オーレル・ニコレ, ミュンヘンバツハ管弦楽団, カール・リヒター

ヨハン・セバスティアン・バツハ 管弦楽組曲 第1番 ハ長調 BWV1066

ヨハン・セバスティアン・バツハ 管弦楽組曲 第2番 ロ短調 BWV1067

ヨハン・セバスティアン・バツハ 管弦楽組曲 第3番 ニ長調 BWV1068

ヨハン・セバスティアン・バツハ 管弦楽組曲 第4番 二長調 BWV1069

オーレル・ニコレ (フルート)

カール・リヒター (指揮、オルガン)

ミュンヘンバツハ管弦楽団

### 3. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴結果

上記の比較は、[スピーカーアクキュライザーの導入\(32\)](#)で報告していますが、この時点からの変更は前報(1)で述べたとおりです。

アナログ盤の再生においては、フォノイコライザーのイコライザーカーブはTELDECを選択し、位相反転させています。STAGE+では、Brooklyn DAC+においてアナログ盤と同様、位相反転させています。

アナログ盤の再生では、ずっと以前の購入から長年聴いており、盤質はよくなりプチプチノイズがあります。しかしながら、リヒター指揮ミュンヘンバツハ管弦楽団

のオーソドックスなバッハの解釈らしく折り目正しい演奏の雰囲気はしっかり伝わってきます。2番のニコレのフルートの優雅な演奏も聴きどころですし、3番のエール（G線上のアリア）もしっとりとした演奏です。通奏低音は十分な量感があります。

STAGE+再生では、古い録音のアナログマスターからのデジタルリマスターと思われませんが、意外にフレッシュでアナログマスターの雰囲気を伝えてくれています。Brooklyn DAC+において位相反転させていることから定位もしっかりしており通奏低音の動きも明瞭です。2番のニコレのフルートもクリアーですし、3番のエール（G線上のアリア）も爽やかに、そして静かな雰囲気を湛えています。音質的にはアナログも STAGE+も良く似ていますが、アナログは太目で厚みがあり、STAGE+はすっきりとしたフレッシュな音です。

#### 4. まとめ

アナログと STAGE+双方に関する変更の効果により、録音は古いものですが、ともにグレードがあがり、STAGE+の配信音源の再生では、2ヶ所への LAN アキュライザーの装着の効果で、予想外にフレッシュでアナログマスターの雰囲気を伝えてくれています。

以上